

介護老人保健施設オアシス21

糟谷三千子（看護介護部/介護福祉士）

功 績 日々のご利用者との関わりの中で、「やりたい」「行きたい」「食べたい」という思いを大切に、笑顔につながるレクリエーションを企画している。行事委員として主体的に多職種と連携し、ご利用者の言葉にならない願いにも寄り添い、その人らしい生活を取り戻す介護を実践するとともに、その姿勢を周囲の職員にも広げている。「その人らしく、キラッと光る一瞬を大切に」を実践し続けている人材。まさに、ご利用者の「やってみたい」を支え、成功体験を積み重ねて自信につながる介護を実践した功績。

推薦者氏名 三木真理子（看護介護部 看護師長 / 看護師）

推薦理由 ご利用者一人ひとりの「やりたい」「行きたい」「食べたい」という意欲を尊重し、レクリエーションを通じて多職種連携のもとその人らしく生きる力をチームで支援しています。ご利用者が楽しまれ希望がかない、その時にみせる笑顔は、職員にとってもやりがいにつながり親身な対応につながります。取り組みは職員のお手本となっており、推薦します。

内 容

2014年3月オアシス21に入職し介護福祉士として業務につき、2024年12月足を痛め退職。ご利用者との関わりを大切にして、ご利用者に笑顔で「輝きの一日を」過ごしていただきたいと、2025年2月当施設に再就職しました。

2025年度、所属する一般療養棟からキラキラ介護賞を3例提出し、このうち2例受賞することができました。

①在宅生活が困難となり特養に入所する前に「お父さんと晩酌したいな」と話されたご利用者にご家族の協力も得て居酒屋レクを実施し、ご家族と笑顔あふれる楽しい思い出を作る事ができました。

②他のご利用者との会話をきっかけに気分の落ち込みや食欲不振が生じていたご利用者が「昔はカレーを作ったよ。自分で作るとおいしいよね」と何気ない言葉を聞き逃さず調理レク実施し、これをきっかけに他者交流が広がり食欲も回復、ご利用者の生活の質の向上につながりました。

③移乗介助中に発生した「ずり落ち」を契機に離床を強く拒否する状態が続いていましたが、根気よく丁寧な言葉がけと統一した移乗介助を続け食堂での食事を再開することが出来ました。「みんなと食べると美味しい」「一人は寂しい」とご利用者の表情は劇的に明るくなり、意欲的な言葉が聞かれるようになりました。

常にご利用者の何気ない日常会話に耳を傾け、個々の希望に寄り添い尊厳のある生活を意識して提供しています。行事委員としてたくさんの笑顔に繋がるレクリエーションを企画し、主体的に多職種と連携し、ご利用者がその人らしく「キラキラと輝く一日」を提供し続けており、多くのご利用者の笑顔を引き出すことができます。介護職として模範となる行動、その功績を称え理事長賞に推薦いたします。